

佳作  
(高校部門)

徳島県立城東高等学校

2年

北井きたい

大陽たいよう

生きた証はある

祖父

私が中二の時、祖母ががんになりました。昔からたくさんお世話をしてもらい、仲が良かった祖母だったので大変ショックでした。しかし、そんなことはどうでもいいというようにがんはどんどん祖母の体を蝕んでいきます。やがて祖母は死が近いことを悟ったのか、この世に生きたという証が欲しいと言い出しました。その時、祖父が返した言葉が私は今でも忘れられません。

「生きた証はある。孫や子供がおるでないで。」

この時、私は自分が祖母の生きた証になるという責任を感じました。それからこの言葉はまじめに一生懸命生きようと私を奮い立たせてくれる言葉になりました。